



## 神戸大学海事博物館の紹介

矢野, 吉治

---

(Citation)

日本航海学会誌 NAVIGATION, 217:11-19

(Issue Date)

2021-09-15

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

この記事はクリエイティブ・コモンズ [表示 - 非営利 - 改変禁止 4.0 国際]ライセンスの下に提供されています。

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100477941>



## 海事博物館紹介

### 神戸大学海事博物館の紹介

矢野 吉治

## Introducing the Kobe University Maritime Museum

Yoshiji YANO

**キーワード:** 和船, 海路図, 船絵馬, 航海用具, 船舶模型

### 1. はじめに

神戸大学海事博物館は深江キャンパス内の正門近く、講堂建屋の一階部分にある。当館は本学の現任教員からなる専門員、神戸商船大学の卒業生と日本船舶海洋工学会関西支部の造船資料保存委員会からなる特別専門員並びに顧問で構成され、全員がボランティアで館の運営に携わっている。入館は無料で、通常期は月・水・金曜日の13時30分～16時に開館しているが、令和2(2020)年の年明けから新型コロナウイルス<COVID-19>対応で学生・教職員のキャンパス内への入構が制限される中、本学の活動制限指針に従ってやむなく長期の休館を強いられた。このような状況下、令和2年が戦後75年にあたることから、途中で会期を終えてしまった前企画展「和船の活躍した時代」と戦後75年企画「太平洋戦争と船員」双方の小企画展の開催準備を進め、令和2年の11月下旬から、毎週金曜日の午後に限って、感染予防措置を講じながら少人数の事前予約制で臨時開館に踏み切った。図1に海事博物館建屋の全景を示す。

設立が認可された私立川崎商船学校に始まる。なお、この学校は、設立後間もない大正9年8月に国家へ献納されて官立神戸高等商船学校へと昇格している。開校から四半世紀を経た戦時下の昭和20(1945)年4月には東京と清水の両高等商船学校とともに高等商船学校へと統合された。一方、校舎等はそのまま海技専門学院に引き継がれた。戦後の昭和27(1952)年5月、この海技者教育ゆかりの地に新制の神戸商船大学が開学し商船学部が誕生した。その半世紀後の平成15(2003)年10月に神戸大学と神戸商船大学が大学統合して神戸大学海事科学部が発足し、さらに令和3(2021)年4月には海洋政策科学部へと発展的にその名称を改めて現在に至る。

### 2. 大学と歩む博物館

#### 2.1 キャンパスの変遷

深江キャンパスは、「四面環海の我が国は海運の発展によって台頭する」と唱えた我が国造船界の先覚者である川崎正蔵氏の発案に端を発し、その遺志を継いだ嗣子の川崎芳太郎氏の時代、大正6(1917)年9月に兵庫県武庫郡本庄村深江の浜に



図1 神戸大学海事博物館

## 2.2 海事参考館から海事博物館へ

資料等の収集は神戸高等商船学校の小関三平第二代校長（1923～1935年）の時代に始まるが、戦禍により目録も作られないままに消失した。その後、商船大学時代の昭和33（1958）年11月に海事参考館が開設され、それまで分散していた教材や資料の蒐集と集約が始まった。開館当時は高等商船学校時代からの模型類の他、戦後各方面から寄せられた、あるいは卒業生や有志から提供された教材などであった。昭和42（1967）年9月、神戸商船大学50周年（私立川崎商船学校創基50周年）記念事業において現在の展示室が講堂建屋の一階部分に完成したのを機に、翌、昭和43年7月に海事資料館へと改称して商船教育や海事の啓発に資することになった。平成7（1995）年1月17日の早朝に発生した阪神淡路大震災では、展示物はもとより収蔵資料に多大なる痛手を被った。図2はそのときの館内の様子である。被災直後から神戸商船大学の卒業生有志による復興と復旧作業が行われて現在の基礎ができあがっている。平成15年10月の大学統合から1年後の平成16年10月に海事博物館へとその名称を改めた。

## 3. 所蔵資料

神戸商船大学の発足から6年後の昭和33年3月に念願の実習船深江丸（I世：150総トン・全長32m）が就航した。これを契機に昭和35年から54年にかけて、戦後の高度成長による資料の散逸を防ぐために瀬戸内海一円から九州において深江丸を活用した全19次に及ぶ調査が行われ多岐にわたる貴重な資料が船で持ち帰られた。その後も調査活動は続けられ、平成18（2006）年までに

その回数は陸路・空路を含み43回にのぼった。

当館の所蔵品は広く海事に関するもの全般にわたるが、古来、海上交通が盛んな瀬戸内海を間近に臨み、また、資料の収集に尽力した教員が和船関係に特段造詣が深かったこともあり、和船分野の資料がとりわけ充実している。明治初年頃の和船板図（設計図）、大小20隻あまりの和船模型、"ろくろ"、"とびせみ"といった和船の部分実物、航海の安全を祈願して神社仏閣に奉納された船絵馬や作り出し奉納額、木製の護符、船名額、船頭たちが手回り品を入れた船簞笥、航海に用いた和磁石や逆針（さかばり）、船具類、船鑑札、船大工道具類、和漢航海教本や船具教科書などの他、絵図として、将軍家船遊之図、朝鮮通信使図巻、ペリ来航図巻、弘化二年外国船絵巻、蒸気外輪船絵図、琵琶湖汽船湖水丸図などがある。近年では縮尺1/30の北前型弁才船模型や廻船の舵用材実物（舵柱）の他、帆船や汽船などの各種模型、書籍類や希少資料などの寄贈を受けて保管、あるいは展示する。さらに、「海路図屏風六曲一双」（左隻と右隻：各1.7m×3.6m）、航路図「浪速より東都海路図解」（2.2m×3.7m）、「海路図屏風下絵」（巻物：1m×6m）や「江戸より長崎道中図巻」（巻物：0.3m×3m）の長尺物の他、近代の航海用具、レシプロ機関やボイラー模型、二千五百枚に及ぶ商船や客船の進水記念絵葉書など、小館ながらも目を見張るものも少なくない。

このほかに次章で紹介する寄贈コレクションと合わせて資料数は4万点を数え、企画展のテーマに沿って大小展示物の入れ替えや配置換えを行っている。図3から図13に常設展示や企画展示の様子と資料の一部を紹介する。



図2 罹災時の館内



図3 企画展「和船の活躍した時代」





図4 企画展ゾーン



図5 往年の船橋機器コーナー



図6 和船コーナー



図7 航海機器・進徳丸コーナー



図8 模型船コーナー



図9 ボイラー・蒸気レシプロ機関模型

#### 4. 鋼製汽船「朝顔（丸）」船首像

常設展示物の中から汽船「朝顔（丸）」とその船首像を紹介する。

##### 4.1 船首像の由来（原文）

宮中建安府にあったものを終戦後昭和二十三年海技専門學院に譲り受け本學に移管せられたものである。朝顔（二、四六一総噸）は一八八九年英國

サンダーランドJラング造船所において建造せられた。一八九三年頃岩崎弥太郎氏より日本郵船に譲渡、當時より日清戦争徴用期間を除き日露戦役まで東廻り神戸ー小樽間沿岸航路就航、一九〇四年五月二日第三回旅順閉塞隊参加、黄金山砲台下に爆沈、指揮官向菊太郎海軍少佐以下十七名戦死（廣幡忠隆氏書翰より）





図 10 船大工道具

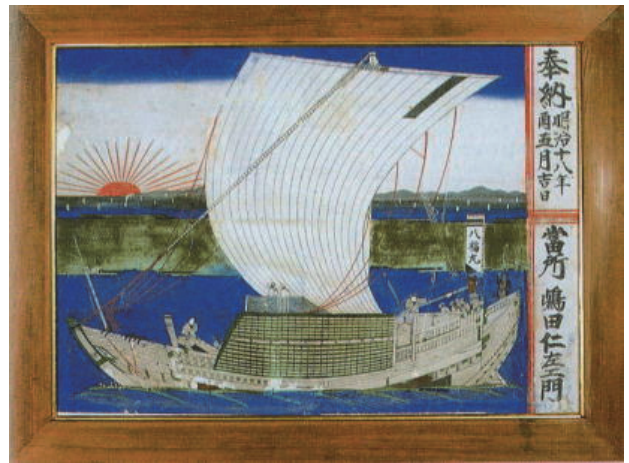


図 11 和船絵馬

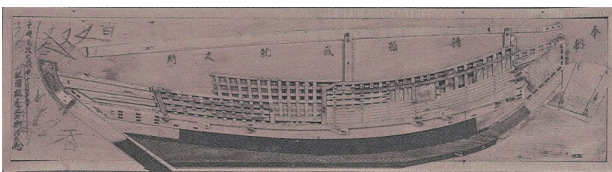


図 12 作り出し奉納額



図 13 廻船の舵用材（舵柱：長さ 7.3m）

#### 4.2 汽船「朝顔」、のち「朝顔丸」

明治 22 (1889) 年 1 月に日本の三菱会社が社船「朝顔」として英国サンダーランドの James Laing & Sons 造船所から購入した総トン数 2,461 トンの鋼製汽船である。日本の船には船首像を飾る習慣がなかったことから、英国の造船所に最初から同社の船として発注したのではなく、すでに船首像まで取り付け、竣工間近であった同船を何らかの事情で買い取ったものではないかと推察される。なお、汽船「朝顔」は明治 26 (1893) 年 6 月に日本郵船会社に譲渡されて「朝顔丸」へとその船名が改められ、東廻り「神戸—小樽」間の沿岸航路に就航している。当時の船体は黒塗りで、日露戦争では軍用船として海軍に徴用され、明治 37 (1904) 年 5 月 2 日、第 3 次旅順港閉塞隊に加わって黄金山砲台下に自沈し、水路障害物としてロシア艦船の旅順港への出入りを阻止する役目を担った。図 14 は「朝顔丸」である。

#### 4.3 船首像<Figurehead>

船首像の多くは欧米船の遺物であり、船体から既に取り外された女性型の船首像はアジアでも現存数が少なく貴重な逸品とされる。右手を胸に当てて心持ち顔を上げ、右上方を仰ぎ見て祈りを捧げる豊満な婦人の木造である。汽船「朝顔（丸）」の船首像として舳先にあったころは、遠くの水平線をきりっと見つめ、その前途をしっかりと見守っ

ていたことであろう。1880 年代に建造された船の船首像は英国に限らずヨーロッパでも白色塗装の婦人像が多く、この当時の流行であった。汽船「朝顔」の船体は黒塗りであったことから、英国より日本へ回航されたときの船首像もまた黒塗りであったと推察される。図 15 は正面と背面から見た像である。普段見ることのできない背中側のひび割れから木製であることがわかる。また、所々剥離

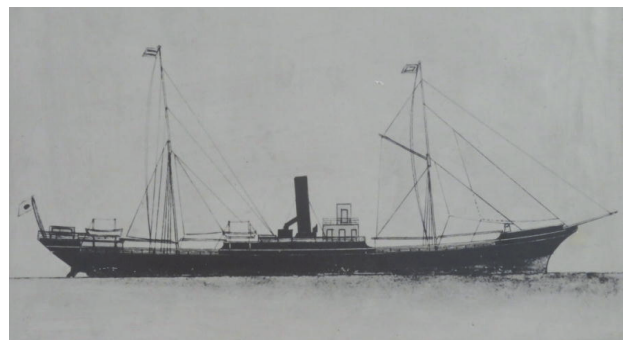


図 14 鋼製汽船「朝顔丸」&lt;2,461G/T&gt;



図 15 朝顔丸船首像（正面と背面）

した黒色塗料の下に初期の白色塗料が散見されることから、この船首像はもともと純白であったことがうかがえる。

旅順港閉塞隊の船は主に広島港から作戦海域に回航されたようで、この船首像はおそらくこの時点で取り外されたのであろう。その後、宮中建安府に保管されていたものが戦争終結後の昭和 23 (1948)年に当時の運輸省海技専門学院に移管後、神戸商船大学に引き継がれて今日に至っている。現在この船首像は薄緑がかった乳白色に塗りかえられて館内に常設展示されているが、当館の前身である海事資料館の収蔵品として本格的に整備されるまでは最初の黒塗り塗装のままで 50 年近くの長きにわたり放置されていたようである。

## 5. 戦後 75 年企画「太平洋戦争と船員」

この小企画展では戦前から戦中にかけて活躍した日本商船隊とともに深江の地を巣立った数多くの卒業生と船員の姿をとりあげ、次第に記憶から薄れつつある過去の事実を今に伝えるものである。図 16 に案内ポスターを示す。コロナ禍の令和 2 年 11 月下旬に開幕した戦後 75 年企画「太平洋戦争と船員」から抜粋して以下に紹介する。

### 5.1 太平洋戦争で散った日本商船隊

先の太平洋戦争では総トン数百トン以上の日本商船あわせて 840 万総トンを喪失したといわれるが、それらのほとんどはある程度限られた海域で戦没している。また、これら沈没船の半数以上は米潜水艦の雷撃によるもので、日本やその他の地域からの派遣兵力、さらには物資の補給を遮断させるアメリカの補給断絶作戦によるものであった。戦没船海域図に各地で戦没した五千総トン以上の日本商船を日本殉職船員顕彰会の資料から抽出し、海域ごとに船名を付してパネル展示している。

### 5.2 船員の殉職

先の大戦では物資輸送のために多くの船員が陸海軍に徴用された。徴用船で船と運命を共にして殉職した船員は当時の日本人船員全体の約 43%, 60,545 人に及ぶ。この中で 18 歳未満の年少船員は八千人を超えていたといわれる。神戸高等商船学校の卒業生総数 2,992 人の内、殉職を含めて 794 人がこの戦争で命を落とした。太平洋戦争における軍人の損耗率（動員された人数に対する戦死者の比率）は陸軍で約 20%, 海軍では約 16%であっ

たことから徴用船員の比率が際立って高い。

昭和 46 (1971) 年 3 月、横須賀市の観音崎公園の高台に船員像 2 体と、これを見上げる人形像 2 体が建立され、『海に眠る船員の鎮魂と希望』とし、碑文には次のことばが刻まれている。

"安らかにねむれ わが友よ

波静かなれ とこしえに"

また、ここには神戸高等商船学校、後の運輸省航海訓練所の練習船「進徳丸」の左舷錨（有桿錨：Stock Anchor）が保存されている。図 17 は本学の進徳丸メモリアルにある同船の右舷錨である。

今も昔も、そして将来も、日本にとって不可欠なインフラである海運と船員（海技者）教育、私たちと関わりの深い『海』の恩恵を今、考えよう。

#### 【主な展示内容】

- 1) 戦没船海域図：太平洋で戦没した五千総トン以上の船の海域ごとの船名
- 2) 戦時標準船と戦時徴用船
- 3) 神戸高等商船学校卒業生の戦没海域と船名
- 4) 神戸高等商船学校の海技者教育
- 5) 神戸高等商船学校卒業生戦没者名簿 他



図 16 小企画展のポスター



図 17 進徳丸の右舷錨（有桿錨：Stock Anchor）



## 6. 寄贈コレクション

近時、個人や団体から様々なかたちで海事関連資料の寄贈がある。当館への大型の寄贈コレクションをここに紹介する。なお、これらの詳細については海事博物館研究年報で報告している。

### 6.1 中島忠次郎コレクション

昭和55(1980)年に寄贈された。中島忠次郎氏は鎌倉市の海事研究家で、二十歳の頃から身の回りのものを捨てずに集め始め、特に客船と船旅に強く魅せられたようである。戦前・戦中を通じて"捨てられるものを集めた60年"として客船会社や客船に関する資料を中心に玉石混合ではあるがたいへん貴重なものから紙屑に等しいものまである。当時の客船会社の紹介、客船のデッキプラン、食事メニュー、航路紹介の特大大判ポスターなどの国内編：2,849点、外国篇：5,821点、合わせて8,670点、小物を含めると一万四千点を数える。

### 6.2 山田早苗コレクション

山田早苗氏は芦屋市の歯科医師で、幼少の頃から乗り物、特に船に興味を持ち、優雅な商船の姿に心を惹かれたようである。戦前・戦中における日本商船隊の行動記録集では総トン数500トン以上の日本商船隊約4,600隻の行動記録(船の要目、写真、行動概要など)を詳細にまとめあげている。雑誌「船の科学」に「日本商船隊の回顧」と題して長年にわたり寄稿する。その他、日本商船隊102隻の縮尺1/600模型がある。『戦中の日本商船の情報は山田早苗コレクションがなければ世界中のどこにもその資料は存在しない』とまでいわれるほど唯一無二のたいへん貴重で大切な資料である。平成16(2004)年に寄贈され、戦没者ご遺族の依頼による船舶の行動調査や戦中の沈没船調査など、生前の山田氏の遺志を当館が引き継いだ。コレクションの内容は次の通り。

- 1) 日本商船隊行動記録集：20冊
- 2) 船主別所有船舶写真集：11冊
- 3) 船舶写真集キャビネ版：14冊
- 4) 船舶写真ネガアルバム集：16冊
- 5) 船舶絵葉書集：2冊
- 6) 1/600スケール船舶模型：102隻
- 7) 日本船名録(逓信省明治23～昭和18年)：22冊
- 8) 船舶出航予告表：18冊
- 9) 戦史叢書：49冊
- 10) 陸軍徴傭船の行動調書：2冊 他

### 6.3 本屋敷勝也コレクション

昭和6(1931)年、神戸市生まれの本屋敷勝也氏は少年期に艦船の模型作りに熱中した。和船や商船の模型を額縁の中に立体的に納める"フレームシップ"を考案し、ほのぼののするとてもユニークな作品24点、廻船時代の湊の風景を模したジオラマ1点、船鑑札18点や深江丸<I>の救命浮環、和船模型、帆船模型製作キットなどが平成21(2009)年から22年にかけて寄贈された。

### 6.4 別所四郎コレクション

軍医であった別所四郎氏から平成22(2010)年に戦史叢書を、さらに平成25年にはご遺族から軍艦模型と航空機模型の他、書籍等が寄贈された。コレクションの内容は次の通り。

- 1) 戦史叢書：102点
- 2) 軍艦模型(縮尺1/200)  
：戦艦「金剛」、航空母艦「瑞鳳」  
重巡洋艦「妙高」、軽巡洋艦「最上」  
駆逐艦「神風」、潜水艦「伊400型」  
飛行艇母艦「秋津洲」など27点
- 3) 航空機模型(縮尺1/72)  
：局地戦闘機「紫電」、「紫電改」  
艦上戦闘機「零戦」、「烈風」  
艦上爆撃機「彗星」、艦上偵察機「彩雲」  
など33点
- 4) 写真集  
：日本海軍全艦艇史海軍全8巻  
日本航空機総集全8巻 他

### 6.5 泉江三コレクション

元造船所勤務でイズミ・アソーシエーツ主宰の泉江三氏から平成30(2018)年に膨大な数の艦艇と商船や帆船図面の寄贈があった。図面類はその多くが大判の青図である。引き続き、平成31年には海事関連書籍として多数の洋書と和書の他、造船関連会誌や雑誌類が寄贈された。コレクションの内容は次の通り。

- 1) 日本海軍水上艦図面：319隻・3,142点
- 2) 日本海軍潜水艦図面：116隻・2,896点
- 3) 外国軍艦図面：229隻・1,076点
- 4) 日本商船図面：101隻・101点
- 5) 外国商船図面：56隻・59点
- 6) 外国帆船図面：103隻・130点 計7,404点
- 7) 書籍：洋書969点、和書：292点、  
造船関連会誌・雑誌類726点 計1,987点

## 7. 企画展と市民セミナーの開催

毎年の「海の日」を記念して企画展を開催する。テーマに沿って展示資料の入れ替えや配置換えを行い、常設展示とともにより多くの収蔵資料の公開を目指している。また、秋季には企画展にあわせて1～4回の市民セミナーを開講する。なお、資料整理を重点的に行った年やCOVID-19の影響により中止または開催しない年もある。当館が有する資料の内容を類推していただくため、これまでに開催した企画展のテーマを以下に挙げる。

- 1) 船旅の今昔
- 2) 幕末から明治の船と港の引札展
- 3) 山田早苗コレクション展
- 4) 近代日本商船隊の全容
- 5) 戦前・戦後のポスターに見る日本商船隊
- 6) 江戸時代の海路の賑わい
- 7) 航海術と計器の発展  
ー大航海時代から人工衛星までー
- 8) 船の推力発展史 ー人力・風力から未来へー
- 9) 進水式絵葉書にみる船の変遷
- 10) 船舶模型から学ぶ人・海・船  
ー海運の過去・現在・未来ー
- 11) 大戦中の日本商船 船員の姿
- 12) 神戸における海技者教育 100年の歩み
- 13) 和船の活躍した時代
- 14) 戦後 75 年 太平洋戦争と船員

## 8. 広域日本遺産への登録認定とふね遺産への登録申請

### 8.1 日本遺産への登録認定

平成 29 (2017) 年 4 月、北海道から日本海沿岸にかけて、さらには瀬戸内海一円の西回り航路で廻船物流を支えた北前船の寄港地や船主集落を地域歴史遺産として保存し活用するために『荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～』が、北海道から日本海沿岸の全 11 市町で文化庁の日本遺産 (Japan Heritage) に認定された。次いで平成 30 年 5 月に神戸市を含む全 27 市町が、さらに令和元年 5 月には 7 市町が追加認定され、16 道府県 45 市町にわたる広域の日本遺産がここに誕生した。当館では神戸市教育委員会からの協力要請を受けて、和船模型、和船の部分実物をはじめ船大工道具類、航路図や海路絵巻などをもって申請に連携した。

### 8.2 ふね遺産登録に向けた申請

神戸高等商船学校の練習船として大正 12 (1923) 年 12 月 9 日に進水した 4 檣バーカンティン型の帆船「進徳丸(しんとくまる)」, <設計: 英国 Lamage & Ferguson Co., 建造: 三菱造船株式会社>を第 5 回「ふね遺産」への認定候補として令和 3 年 1 月に当館から日本船舶海洋工学会に推薦した。図 18 は就航後間もない進徳丸帆走中の英姿である。船名の「進徳」は、この年、9 月 1 日の昼に発生した関東大震災に際して、同年 11 月 10 日に発布された国民精神作興に関する詔書中にある「智徳並進」の一節からとったもので、当時の教育方針が智育偏重の風潮にあるのを是正しようと、海に学ぶ若人たちに対して徳育の必要性を特に強調し、その成果を大いに期待するためであったとされる。進徳丸は昭和 19 (1944) 年 9 月に帆装を撤去され汽船練習船に大改装された。昭和 20 年 7 月 24 日 12 時 15 分、清水高等商船学校の航海科第 1 期生 139 人と神戸高等商船学校の機関科第 45 期生 20 人が実習中の播磨灘で米軍艦載機の攻撃を受け、2 番船倉右舷の吃水線下外板を貫通した 1 弾が船内で炸裂、神戸高等商船学校の機関科生徒 4 人と清水高等商船学校の航海科生徒 1 人が殉職、16 人が重軽傷を負うという大惨事に見舞われ、二見沖に擱坐した。昭和 21 年 8 月、我国の復興に寄与させるために復旧の見込みのある本船は引き揚げられ、昭和 22 年 5 月に三菱重工神戸造船所で再び練習船として復活した。昭和 38 (1963) 年 3 月の退役後、昭和 42 年 5 月に神戸商船大学の構内に陸揚げ保存された。なお、阪神・淡路大震災により左舷側至近の護岸が崩壊し、復旧のため平成 8 (1996) 年 2 月にやむなく解体撤去された。



図 18 練習船進徳丸

(2,518.42 総トン・長さ 109.1m)



進徳丸は非現存船であるが、ジグマスト、蒸気レシプロ機関、船長公室や学生居室の一部を再現しておさめた進徳丸メモリアルが平成10(1998)年3月31日に深江キャンパス内のポンド(係船池)東側に完成している。

大正13(1924)年2月25日の就航以来、40年間における総航程は53万海里(地球24.5周)に達し、この間に一万二千有余の海の若人を育成した。図19から図21は汽船への改装後及び陸揚げ保存された進徳丸並びに同メモリアルである。

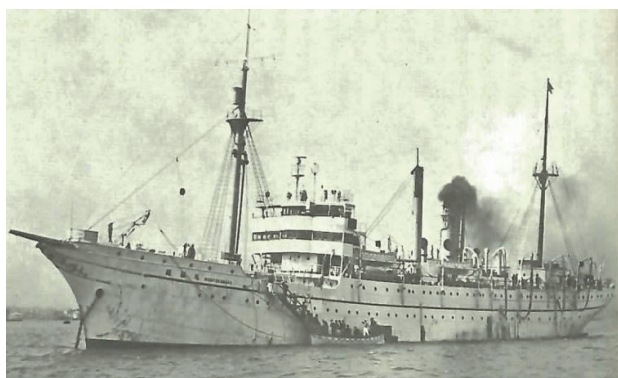


図19 汽船練習船に改装後の進徳丸  
(2,792.43 総トン・長さ91.0m)



図20 進徳丸保存会による保存活動



図21 進徳丸メモリアル

## 9. サテライト巡回展

より多くの学生や教職員、さらには一般市民に多彩な企画をご覧いただくため、この数年、神戸大学のキャンパス各所でサテライトミュージアムの巡回展を開催している。本学の附属図書館、文書史料室等と連携して、令和元年度は「和船の活躍した時代」、「新制神戸大学の誕生—新制大学発足70周年記念—」、「阪神・淡路大震災25年、あのときとこれから」を開催し、館内のアーカイブコーナーにおいても会期を設けて巡回展示した。

## 10. おわりに

小学児童から高齢者を含む一般社会人の皆様まで年間三千人程をこれまでお迎えしてきたが、コロナ禍の令和2年2月29日以後、大学博物館としての活動が制限されて長期休館が続いた。同年11月20日からようやく毎週金曜日の午後に関り来館者をお迎えする臨時開館にこぎ着けた。なお、資料の貸し出しや提供、寄贈等には月・水・金曜日の午後に随時対応している。

『海と船の過去と今、夢ある未来が詰まった大学博物館』を当館のホームページで紹介するほか、博物館活動の一環で毎年「海事博物館研究年報」を発行し、令和2年度で48巻を数える。これらは「神戸大学学術成果リポジトリ」において、キーワード「海事博物館」にてインターネットを介し閲覧が可能である。また、教育面では、本学の人文学研究科と理学研究科の学生を対象に博物館実習の場を提供し大学博物館としての新たな一歩を踏み出したところである。

この度、神戸大学海事博物館をご紹介できる機会を与えていただいた日本航海学会に感謝し御礼申し上げる。最後に、今禍のCOVID-19パンデミック解消後には、再び多くのみなさまに安心してご来館いただけるようスタッフ一同、心よりお待ちしております。

## 参考文献

- (1) 神戸大学海事博物館リーフレット
- (2) 進徳丸メモリアル リーフレット
- (3) 神戸大学海事博物館ホームページ

<http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/>

- (4) 神戸商船大学五十周年記念誌
- (5) 神戸大学深江キャンパス創基100周年資料

---

令和3年4月吉日投稿

やの よしじ  
**矢野吉治**

正会員 神戸大学大学院海事科学研究科，海事博物館長

(〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1)

E-mail : [captyano@maritime.kobe-u.ac.jp](mailto:captyano@maritime.kobe-u.ac.jp)

1979 年神戸商船大学商船学部卒，2008 年博士（海事科学）

所属学会：日本航海学会，日本海洋人間学会 各会員

研究テーマ：荒天錨泊，船底防汚，自立航行支援

受賞歴：日本航海学会賞〈橋本 進，山田豊三郎，矢野吉治〉（1984 年）